

2 OJT 実践

OJT キーワード

ニーズに合わせた OJT

- 年度当初に、全職員にアンケートを行い、**ニーズを把握**する。また、毎回振り返りを行い、その際にもニーズを把握する。
また、毎回振り返りを行い、その際にもニーズの把握に努める。
- **その時期に求められていること**にこたえられるような内容を設定する。
学校が教育目標具現化のために求めるために必要な内容については全員参加タイプとし、それ以外は自由参加タイプとする。
- ニーズが高まったときに実施することで、参加しようという意欲が湧き、負担感が少ない。

OJT キーワード

全員参加 OJT

- **全員参加タイプ**と**自由参加タイプ**を**両輪**として、OJTに取り組んでいく。
- **全員参加タイプ**は、現職教育を中心に特設の時間や職員会議後に実施し、みんなで学ぶスタイルを取る。また、校内研究では、全員授業（年1回）による計画的な研修を進める。児童の変容を把握しながら学校教育目標の具現化を目指す。
- 学校教育目標や児童の変容を目的にし、全員が同じ方向へ進むことで、同僚性を高めていく。

OJT キーワード

フレキシブル OJT

- **自由参加タイプ**は時間や場所、内容をフレキシブルに設定する。
- 職員個々の力量向上に寄与できるような内容のものを年間の計画だけでなく、**ニーズが高まったときにも**取り上げていく。
- 職員が参加しやすいように**短時間**で実施する。5分、10分程度のものであれば参加しやすい。
- 職員会議や、打合せ、学年会、諸々の会議で集まったときにOJTを実施する。職員数が多く、一堂に会するのは難しいので、**集まったついでに**場を設定する。
- レジューメなどの作成や場所設定は取り立てて行わずに、**立ち話**のスタイルで行う。



打合せ後に ICT 機器の使い方を